

神戸大学医学部附属病院

呼吸器内科

指導担当医（役職）

羽間 大祐（助教）

実習概要

概要

4週間の実習を通して数人の患者さんを担当し、主治医団の一員として主体的に診療に関わって頂きます。

臨床実習1との大きな違いは、担当患者に関する診療だけでなく、研修医・指導医のシャドーイング、ICへの同席、他科依頼や救急外来での患者診察など、基本的に主治医・担当医とともに日常診療に当たる点です。

医療面接

毎日、朝・夕および必要時に担当患者を訪室し、医療面接を行います。

“OPQRST”や“LQQTSA”などのテクニックを用い、患者の訴えに対し、多角的な問診を行います。

身体診察

毎日担当患者の身体診察を行います。

特に呼吸音に関しては、ただ聴診するだけでなく、聞こえにくい音を聴取するテクニックや、それを医学的にどのように表現するかを学びます。

カルテ記載

毎日、学生カルテに記載を行います。指導医が記載内容をチェックし指導します。

SOAPに基づいたカルテ記載を行うことで思考が整理され、問診・身体診察・検査などにおける不十分な情報に気づくことができます。

症例プレゼンテーション

毎日、朝・夕のグループカンファレンスで担当患者に関して30秒～1分程度のショートプレゼンテーションを行います。

「これまでの経過」、「現在の治療・問題点」、「今後の方針」を考慮し、簡潔で必要十分なプレゼンテーションスキルを身につけましょう。

その他（特色など）

気管支鏡検査では、見学だけでなく実際の検査手技にも参加することができます。

それぞれの希望に応じて指導医からレクチャーを受けることができます。

（過去の学生希望の例：画像の読み方、初診患者の見方、論文の読み方 など）

学生へのメッセージ

呼吸器内科医というよりも、ひとりの医師として必要なものの考え方を身につけ、それに専門的な知識や手技を加えていく4週間にできればと思います。積極的な取り組みを期待します。